

それから 16 年経った 2005 年。1 位は米国のゼネラル・エレクトリック。以下エクソンモービル、マイクロソフト、シティグループとアメリカ企業が続きます。日本企業は、9 位にトヨタ自動車が入っただけでした。

そしてまた 16 年経った 2021 年。世界の時価総額 1 位の企業は米国のアップル。以下マイクロソフト、アルファベット（グーグル）と続き、4 位にはサウジアラビアの国有石油会社サウジアラムコ。5 位にアマゾン、6 位にテスラ、7 位がメタ（フェイスブック）と、誰でも知っているアメリカの IT 企業などが入っています。ベストテンに日本企業はありません。かつて世界の 2 位と 4 位と 5 位の企業がひとつになったみずほ銀行も圏外で、トヨタ自動車が 29 位によりやく顔を見せませぬ。日本 2 位のソニーは世界 35 位。世界の資産家ランキングでは日本一の孫正義さんが 29 位でしたが、いまの日本のトップは、世界に出ればだいたい 30 位くらいのポジションだということでしょう。

世界ランキングを席卷するアメリカの企業はみな、プラットフォーマー。インターネット上で利用者とサービス提供者を結びつける基盤であり、人々が何か行動を起こすときの入り口になっている会社です。彼らは、高い技術と革新的なビジネスモデルでそれまでの常識を果敢に打ち壊して、ビジネスに留まらず、人々に新たな文化を提示して来ました。今の日本ではどうていお目にかかれぬ企業群です。

米国の代表的な株価指数に S&P500 があります。GAF（Google、Apple、Facebook、Amazon）などを中心としたアメリカの代表的な 500 銘柄を指数化したものですが、2000 年から 2021 年までで、この値は 3.5 倍になりました。

同様の趣旨の日本版としては、時価総額の特に大きなリーディングカンパニー 30 社を集めて計算する Core30 があります。俗に経団連銘柄と呼ばれるものですが、2000 年からこの成長が完全に止まっています（小さな上下動は当然ありますが）。日本経済が停滞していることは、一目瞭然です。

一方で、東証には small という株価指数もあります。これは、時価総額が小さめの企業群で、ここにスポットを当てると、アメリカの S&P500 の成長率とそれほど見劣りはしていません。この中には、新たな技術と企業文化をもって着実に業績を伸ばしている企業も少なくないのです。

皆さんは就活のとき、自分が志望している企業が成長企業か、成長が止まってしまった企業なのか、そのあたりをしっかりと見据えてください。

もうひとつ、日本経済には人口減という逆風が吹いています。

世の中に数ある統計予測の中でも、人口統計は最もシンプルで確実な統計です。日本の人口は 1990 年代末から 2012 年くらいまでがピークで（1 億 2 千 7 00 万人台）、そこから減少がはじまり、2053 年には 1 億人を割ると見られます。

興味深いことに、日本の「円」がいちばん強かったのは 1995 年（79 円）と 2011 年（75 円）。人口のピークと重なります。

人口が多いほど日本経済が強く円の価値が高まり、減り始めると購買力が落ちて円安になるのです。つまり輸入品は値上がりします。海外で作られている iPhone が、新モデルのたびに値上がりしていくわけです。

私は皆さんに、若い時代から人生を見通しながら資産形成をちゃんと考えてほしいと思います。それは、ギャンブルのように一攫千金を狙うものとは全く違います。この先の長い人生、自分がしたいことにチャレンジしたり、なりたい自分になるためには、物理的にも精神的にも、経済的な基盤が重要です。その基盤をちゃんと長期的に、そして論理的に考えましょう、と呼びかけたいのです。いまの時代、資産形成がしっかりできれば、その先の不安もなく、好きな仕事を好きな場所や土地でできるのですから。

若いうちは株式が良いと思います。バイト代のほんの一部、月 1 千円でもいいから毎月積み立てて、株式に投資してみましょう。そして日本の企業より世界に目を向けてください。先ほど人口統計のことにふれましたが、2100 年まで世界の人口は増え続けます。人口が増えれば消費が増えて経済がまわる、という単純な図式です。

## ○証券会社が描く未来のメガトレンド

野村証券グループには、野村総合研究所という、シンクタンク・コンサルティングファーム・システムインテグレーター（情報サービス企業）があります（略称・NRI）。そこが毎年未来年表を発表しているのですが、今年（2022年）は、世界を変えていく4つのキーワードが掲げられています。

それは、AI（人工知能）、カーボンニュートラル、モビリティ（自動車・海運・空運）、6G（5Gの次の第6世代携帯電話）、です。ぜひHPをご覧ください（NRI 未来年表 2022-2100）。

さてここであらためて、「証券会社って何？」という話をします。

金融には「直接金融」と「間接金融」がある、ということをご存知だと思います。直接金融では、お金の出し手がお金を使う人や使い道を選べます。証券取引が代表的なもので、資金は投資家から企業に移転されて、投資先のリスクは投資家が負います。これに対して間接金融の代表例が銀行で、企業は、預金者から集めたお金を持つ銀行を通して、間接的に預金者からお金を借りることになります。銀行はあくまで仲介役ですから、思い切った決断はとれず、どうしても保守的になります。

ちなみに、東京大学の昨年の学部生就職先企業の第1位は、楽天グループでした。

楽天が1997年にECモールとして立ち上がろうとしたとき、銀行はこの会社にぜひ融資をしたい、と思ったのでしょうか？時代は日本のeコマースの黎明期で、インターネットの国内普及率は10%にも届いていません（現在は約83%）。ですから答えはもちろん「NO」で、楽天はベンチャーキャピタルファンド（VC）から資金を調達しました。VCとは、若い成長企業への出資を専門に扱います。現在では、大手企業もこの分野に参入しています。IT系では楽天やサイバーエージェント、マスコミではTBSやフジテレビ、通信ではドコモやKDDI、凸版印刷などもVCを営んでいます。

スタートアップに成功したベンチャーが、いよいよ上場する段階。そこからが私たち証券会社の出番です。

証券会社には、大きく分けてリテール部門とホールセール部門があります。私がいるリテール部門は、上場をめざしている企業のために個人の株主を集めます。ホールセール部門は、銀行や年金基金といった機関投資家を集めます。そしてリサーチや上場企業との連携なども図りながら、株式上場の実務を担います。証券会社の仕事の8割はこのホールセールにあるのですが、逆に皆さんの証券会社のイメージとしては、もっぱらリテール部門が中心にあるのではないのでしょうか。

さらに、「リテール＝株の取引」と思われていると思います。でもリテールを担当する私自身の仕事の中でも、株の売買は一部にすぎません。大卒でくれば私の仕事は、「お客様の資産を次世代に残すビジネス」なのです。資産の最適な運用方法を提案したり、複雑な資産承継をお手伝いしたり、あるいは不動産の購入や売却をサポートします。

またお客様は個人だけに限らず、事業法人のM&A、いま言った株式上場・資金調達、さらには事業の成長や海外進出を支援する仕事もあります。株の取引にとどまらず、その周辺でニーズのある、コンサルティングなど非金融部門からいかに収益を上げるかが、近年の取り組みの中心です。会社自体、そして私自身が、大きな過渡期にあると感じています。

こうした流れをわかりやすく示すのが、証券会社から転職する人々の近年の進路です。証券会社から別のキャリアを選んだ人たちはこれまで、生命保険会社や、地方銀行、投資信託の運用会社などに転じていました。証券会社というひとつの共通項からそのまま導かれるような進路で、これは帰納法的転職といえるでしょう。

それに対して近年の野村証券からは、例えば小樽商大の先輩でもある塚原敏夫さんが道北の上川町で「上川大雪酒造」という酒蔵を起業したり、サラダボウルの専門店を入り口に食の世界に転じた武文智洋さん、証券と保険を取り扱う資産コンサルティング会社を立ち上げた堀江智生さん、あるいは人気youtuberとして稼いでいる宋世羅さんといった方々がいます。こちらは演繹法的な転職と呼べるかもしれません。

野村証券が求める人材についても、10年前はいわゆる体育会系の、明確な意志や使命感をもつ心身の強い人間に光が当たりがちでしたが、近年はもっと多様なキャラクターが求められています。

私は野村証券で10年キャリアを積んできて、仕事にやりがいと面白さを十分に感じてはいますが、社内ですらにもっと新しい分野にも挑戦してみたい。そんなことも感じている昨今です。資産運用では、目先の事象に一喜一憂せずに「長期」の視座が大事だと言いましたが、リテールの現場ではやはりお客様の一喜一憂と寄り添わなければなりません。おすすめした企業の株価が下がると私自身も辛くなります。その意味でリテール営業には、つねに「マーケットと生きる覚悟」が求められています。

それを少し敷衍すれば、今日私は、目先の損得を超えて自分らしく生きるためにも、「20代までに金融リテラシーをしっかりと身に付けてほしい」と繰り返しました。証券マンが社会を俯瞰すれば、どんな人もつねに「マーケットとともに生きている」と見えるのです。皆さんも、今日からそのことを意識してみてください。

#### ◎おわりに

エバーグリーン講座は、現役の商大生が卒業生のキャリアに触れることができる貴重な機会であり本学のキャリア教育の中心的な科目のひとつです。登壇していただく講師のみなさまは、実際の仕事内容や業界の最新情報を紹介しつつ、ご本人のキャリアの変遷とその節目における大小の決断、その決め手となった具体的な事例や長い社会人生活を振り返って獲得した職業観、人生観といった多彩な話題にも触れていただき、毎回講師の職業人生が凝縮されたエキサイティングな90分間を味わうことができます。本稿の狙いはそれらの講義の随所で講師が（ときに無意識に）例示する「社会人基礎力」の具体的な実践と発揮、およびそれらにつながる背景と文脈に焦点を当て「先輩たちの豊かな職業人生から社会人基礎力を学ぶヒント」を示すことにあります。

実質3年間にもおよんだコロナ渦のなかで、本学の学生たちは今後の社会がどのようなかたちになるのかという大きな不安を抱えつつも、すでに新しい学びの環境に適応し一人ひとりが自らのキャリアの未来に向き合っています。この不確かさが増す時代だからこそ、先達のキャリアの中で磨かれてきた時代を超えた仕事の本質、人生の岐路における究極の選択、多くの出会いの中で築いてこられた人脈という財産など、エバーグリーン講座が伝えるものは、受講生にとって暗闇の中の一筋の光となっているに違いありません。

なお、本稿の素材となった令和3年度エバーグリーン講座の講義録も過去8年間に引き続きライターの谷口雅春さんに作成していただきました。講義期間中は毎週小樽まで通ってすべての講義を聴講していただくことで、講師たちの想いと現役学生との心の交流を汲み取り素敵な言葉にまとめ上げていただきました。ここに記して謝意を表します。

令和4年度

## 社会人基礎力白書

大学生の就業力向上のために

発行	2023年3月30日
発行者	公益社団法人緑丘会 〒170-6057 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン 60(57階) Tel : 03-3981-2340 URL : <a href="https://ryokkyu.or.jp/">https://ryokkyu.or.jp/</a>
	国立大学法人 小樽商科大学 〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号 Tel : 0134-27-5206 URL : <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/">http://www.otaru-uc.ac.jp/</a>
印刷	ヤマノ印刷株式会社 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-6-15 井門神田駅前ビル Tel : 03-3253-8851 Fax: 03-5297-2713